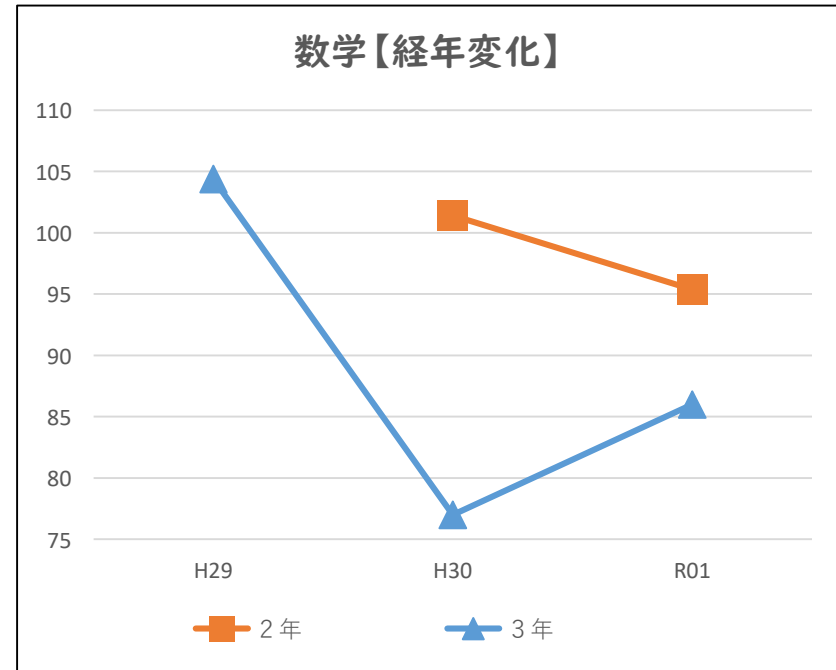
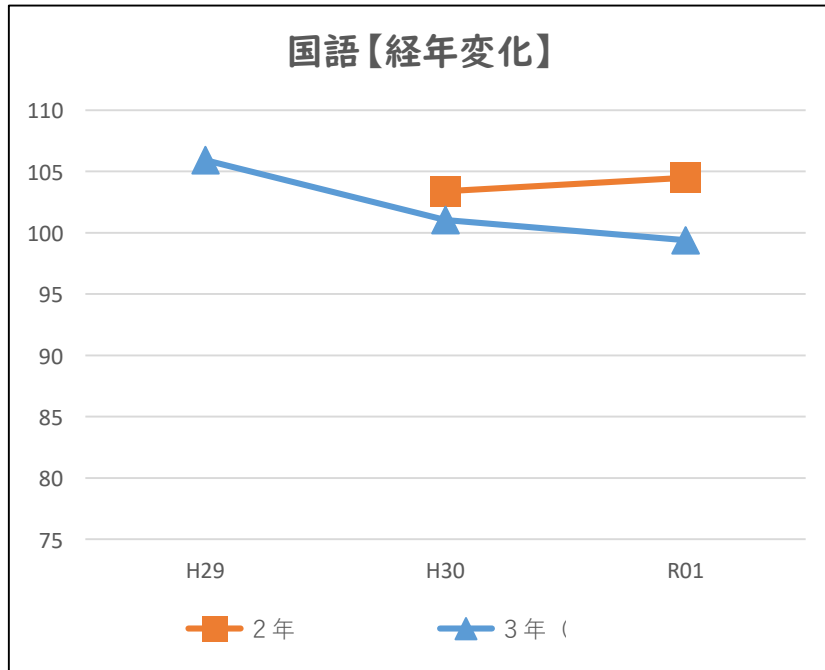


I 現状の把握 (昨年度の釧路市標準学力検査より)

各学年の経年変化 (目標値を100としたときの、各学年の状況)



○成果 △課題

2年生国語

○経年変化で見ると、前年度よりも1ポイント以上の向上が見られる。○目標値を5ポイント近く上回っている。

2年生数学

△経年変化で見ると、前年度よりも5ポイント以上下降している。△目標値を5ポイント近く下回っている。

3年生国語

△経年変化で見ると、前年度よりもわずかに下降している。○△目標値との差はわずかであり、ほぼ同様であるといえる。

3年生数学

○経年変化で見ると、前年度よりも10ポイント近く向上し、目標値に近づいている。△未だ目標値との差は大きい。

Ⅱ 各学年における昨年度の成果と課題、今後の取組 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

		成果と課題について	今後の取組について
2年生	国語	<p>○第1学年までに習った漢字の読みと文法事項において目標値を大きく上回った。教科における新出漢字定着のための小テスト実施が成果となって表れていると考える。</p> <p>○「書くこと」の領域において、無回答の割合が小さく、目標値を上回っている問題が多い。</p> <p>△小学校までに習った漢字を書く問題の正答率に課題がある。</p> <p>△自分の考えを明確にして表現する問題について、自分の考えを明確にすることはできているが、条件にしたがって具体的にまとめる力に課題がある。</p>	<p>◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</p> <p>以下に示す学習過程の実践。</p> <p>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</p> <p>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</p> <p>◎現在行っている小テストにおいて、中学校の新出漢字に加え、小学校で学習した漢字に関する問題を出題する。また、学習場面において既習の漢字を用いる指導を徹底する。</p> <p>□長期休業中において弱点克服に向けた課題を出す。</p>
	数学	<p>○平面図形の領域ではすべての問題において目標値を上回っている。計算と異なる領域であり、単元を学習してから期間が経っていない問題の正答率が高いと考える。</p> <p>△1次方程式・比例・反比例における問題の多くの正答率が目標値を下回っており、単元を学習してから長期間経過した問題の正答率が課題であると考え。</p>	<p>◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>以下に示す学習過程の実践。</p> <p>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</p> <p>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。①生徒が課題解決のために思考・判断</p> <p>□苦手な領域を克服するための朝学習の活用</p> <p>①単元の学習から期間が経った領域の問題について、一定の期間、朝読書の時間を朝学習に切り替え、問題演習を実施する。</p>
3年生	国語	<p>○第2学年までに習った漢字の読みについては、目標値を上回っている問題が多い。教科における新出漢字定着のための小テスト実施が成果となって表れていると考える。</p> <p>○聞く能力に関しては、目標値を上回っている問題が多い。</p> <p>△品詞の分類や歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことに課題がある。学習から長期間経過している問題の正答率が課題であると考え。</p> <p>△「書くこと」に関する問題における無回答率の高さが課題である。とくに、情報を整理し、自分の考えをまとめる力に課題がある。</p>	<p>◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</p> <p>以下に示す学習過程の実践。</p> <p>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</p> <p>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</p> <p>◎現在行っている小テストにおいて、中学校の新出漢字に加え、小学校で学習した漢字に関する問題を出題する。また、学習場面において既習の漢字を用いる指導を徹底する。</p> <p>□長期休業中において弱点克服に向けた課題を出す。</p>
	数学	<p>○図形の性質に関しては、目標値を上回っている問題が多い。計算と異なる領域であり、単元を学習してから期間が経っていない問題の正答率が高いと考える。</p> <p>△式の計算・1次関数における正答率が目標値を下回っており、単元を学習してから長期間経過した問題の正答率が課題であると考え。</p>	<p>◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</p> <p>以下に示す学習過程の実践。</p> <p>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</p> <p>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</p> <p>□苦手な領域を克服するための朝学習の活用</p> <p>①単元の学習から期間が経った領域の問題について、一定の期間、朝読書の時間を朝学習に切り替え、問題演習を実施する。</p>

Ⅲ、学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

①成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

授業づくり

○5教科では、各教科での授業改善・反復学習により基礎的・基本的事項に関する定着が図られてきている。
 △5教科では、学習してから長期間が経過している問題の正答率に課題がある。また、活用問題の正答率に課題がある。
 ○全学年数学科における習熟度別少人数指導の実施及び工夫により、3年生の経年変化において大きな伸びが見られている。
 ○全学年国語科における授業開始時の小テストの実施・反復により、新出漢字の読みに関する問題の正答率に伸びが見られている。
 △全教科をとおして生徒の思考力・判断力・表現力を高める主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりが課題である。

環境づくり

○生徒会活動を中心とした朝読書の取組による、読書に親しむ習慣の確立が定着しつつある。
 ○家庭学習習慣に結びつく放課後の「自学自習スペース(視聴覚室)」の活用において、利用者が増加傾向にある。
 ○定期テスト前後の特別時間割による自学自習時間の確保によって、テストに向かう意識が向上してきている。
 ○各種検定(英語検定、漢字検定、数学検定)への積極的な挑戦への啓発により、挑戦者が増加してきている。

②改善の方向性について

※5W1Hで明記

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎改善する取組 等)

4月～
 ◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。(教務)
 以下に示す学習過程を全教科において行う。
 ①生徒が解決に向けて思考・判断・表現することを促す課題の提示。
 ②生徒が個人思考した結果を表現しあう時間の保障。
 ③単元における「見通し」と「振り返り」の位置づけ。
 □生徒の思考力・判断力・表現力を高める主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内研修の充実。とくに、生徒が解決に向けて思考・判断・表現することを促す課題の在り方について研修を深める。(研修)
 ◇全学年数学科における習熟度別少人数指導の実施と工夫を継続して行う。(数学科)
 ◎生徒の弱点を克服するために全学年5教科におけるチャレンジテストの結果を分析し、朝学習の課題を作成する。(教務・各教科)

6月～
 ◎実践に基づく研修の推進と全教師による授業公開を行う。(研修)

4月～
 ◎生徒会活動を中心とした朝読書の取組を継続すると同時に、朝学習との住み分けを図ることで、読書に親しむ習慣の確立に加え、基礎的な事項のさらなる定着を図る。(教務・生徒指導)
 ◇家庭学習習慣に結びつく放課後の「自学自習スペース(視聴覚室)」については、これまでどおり活用を図る。(生徒指導)
 ◇定期テスト前後の特別時間割による自学自習時間の確保を継続する。(教務)
 ◇小中連携し、ノーゲームデーを中心としたアウトメディアプロジェクトを推進する。(コミスク)

6月～
 ◎小学校と連携した各種検定(英語検定、漢字検定、数学検定)への積極的な挑戦への啓発を図る。

- 家庭学習習慣に結びつく放課後の「自学自習スペース(視聴覚室)」の活用において、利用者が増加し、家庭学習に結び付きつつある。
- 定期テスト前後の特別時間割による自学自習時間の確保によって、テスト勉強の習慣化が図られてきている。
- 冬季休業中の補充学習を部活動との住み分けを図ることにより、補充学習参加者が10ポイント以上増加した。
- △学校評価における家庭学習の習慣化についての評価数値は、年々向上してきてはいるが、全項目中最低であり、まだまだ低い。

- 4月～
- ◇「学習の手引き」を活用し、効果的な家庭学習の進め方についての指導を行う。(教務)
 - ◇「各種たより」により、望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けた家庭への啓発と連携の依頼を行う。(コミスク)
 - ◇家庭学習習慣に結びつく放課後の「自学自習スペース(視聴覚室)」の活用を継続する。(生徒指導)
 - ◇定期テスト前後の特別時間割による自学自習時間の確保を継続する。(教務)
 - ◎長期休業中の補充学習日における部活動との住み分けを継続する。また、教育相談による個別支援の拡充を行う。(教務)

※必要に応じて高さを調節してください。

※3つの視点において、成果と課題を整理してください。また、課題については、具体的な記載をお願いします。

※改善の方向性については、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」行うのか。また「その理由」についても記載してください。